

2021年度

君に薦める一冊の本

「君に薦める一冊の本」とは

先生方から学生の皆さんへの推薦図書です。先生方の心の琴線に触れた図書や学生生活を送る上で役立つ図書、教養を深める図書など今年度も多数の図書を推薦していただきました。勉強やクラブ・サークル活動など、忙しい学生生活の合間にぜひ手に取って読んでみてください。皆さんの豊かな人格形成に役立つことを願っています。

— ご推薦いただいた先生 —

【建築学科】

瀧野 敦夫 先生

【機械工学科】

山浦 真一 先生
横山 奨 先生

【電子情報システム工学科】

廣芝 伸哉 先生

【応用化学科】

村田 理尚 先生
平原 将也 先生

【生命工学科】

藤田 英俊 先生

【一般教育科】

白井 慎一 先生
野澤 真人 先生

【総合人間学系教室】

大塚 生子 先生
瀧川 宏樹 先生
西山 由理花 先生

【空間デザイン学科】

郡 裕美 先生
山本 麻子 先生

【データサイエンス学科】

濱田 悦生 先生
坂平 文博 先生

【情報システム学科】

雨宮 徹 先生

【情報メディア学科】

河北 真宏 先生
田岡 育恵 先生
大井 翔 先生
中西 淳 先生

【知的財産学科】

三宅 紘子 先生

【教育センター】

岡村 多加志 先生
尾形 健一 先生

【ランゲージラーニングセンター】

マーティン メリック 先生

建築学科 瀧野 敦夫 先生



『ピーター・ライス自伝 あるエンジニアの夢みたこと』

ピーター・ライス著

岡部 憲明監訳 太田 佳代子、瀧口 範子訳／鹿島出版会

世界的にとっても有名な建築構造エンジニアリング会社であるArup社で活躍されているピーターライス氏の自伝です。シドニーオペラハウスやポンピドゥーセンターなどとても有名な建築のエンジニアリングを担当された方です。

少し建築の専門用語も出てくるかもしれませんが、ものづくりの楽しさ、素晴らしさを感じ取ることのできる本だと思います。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉146.1||K 11500325 〈梅田分館〉146.1||K 97210295 〈枚方分館〉146.1||K 98141522

機械工学科 山浦 真一 先生



『嫌われる勇気 自己啓発の源流「アドラー」の教え』

岸見 一郎、古賀 史健著／ダイヤモンド社

本書はかなり有名な本なので学生の皆さんもきっと書店で目にしたことがあるかも知れません。学生の皆さんはSNSで友人から”いいね”をもらおうと嬉しく感じますか？半面、自分の投稿になんのレスポンスも無かった時はがっかりしたり、焦燥感に駆られながら誰かの返事を待ったりすることでしょう。

でもそんなことで一喜一憂するあなたは、実は自分の人生を生きていないのです。SNSに返事するかしないかは、あなた以外の他人が決めることで、あなたがコントロールできることではないからです。アドラー心理学は他人との距離感、人間関係で悩む私たちに新しい視点を与えてくれます。「すべての悩みは対人関係の悩みである」「人はいまこの瞬間から変われるし、幸福になることができる」「問題は能力ではなく、勇気なのだ」

この本を読んで、少しでも新しい視点を取り入れると、生きていくことがちょっと楽になるかも知れません。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉289.3||R 11601139 〈梅田分館〉289.3||R 71603226 〈枚方分館〉289.3||R 81600927

機械工学科 横山 奨 先生



『月をめざした二人の科学者 アポロとスプートニクの軌跡』 的川 泰宣著／中央公論新社

アメリカ合衆国による人類初の月への有人宇宙飛行計画、アポロ計画において主導的役割を果たした人物がヴェルナー・フォン・ブラウン博士であることは有名かと思えます。では、宇宙開発のライバルであったソビエト連邦の主導者は誰か？

セルゲイ・パーヴロヴィチ・コロリョフ名前を挙げるができる人は少ないのではないのでしょうか。

本書では、上述の二名を軸に冷戦中の米ソ宇宙開発競争の裏側が克明に記されています。ちなみに、著者の的川泰宣博士は日本を代表する宇宙工学者でもあります。

民間宇宙開発が注目される今、宇宙開発の歴史を振り返ってみるのも面白いのではないのでしょうか。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉538.9||M 91210774 〈梅田分館〉538.9||M 97210161 〈枚方分館〉081||C||1566 98210596

電子情報システム工学科 廣芝 伸哉 先生



『ゼロからトースターを作ってみた結果』 トーマス・トウェイツ著 村井 理子訳／新潮社

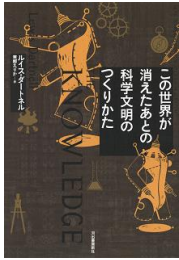
大学で理工学系を選んで入ってきた皆さんは、何かしらモノを作りたいと思って入ってきたのではないのでしょうか？プログラムだったり、電気回路だったり、医薬品や化合物、橋だったり家だったり様々でしょう。プログラムを作るにもモジュールは無料で提供されますし、電線やケース、建設部材、出発物質の化合物はモノタロウ（工学部のAma○onみたいなものですが）や試薬屋さんで買える世の中です。

しかし、1からではなく0からのモノづくりをやったことがありますか？例えば毎日、食パンを焼いているトースターなんか2,000円も出せば買えるし、本当に0からトースターを作るなんて考えたことないのではないのでしょうか？

モノづくりの面白さ・大変さを感じ「ゼロからのモノづくり」を疑似体験できる本書をおすすめします。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉500||T 91211123 〈梅田分館〉500||T 97210276 〈枚方分館〉080||S 98210885



『この世界が消えたあとの科学文明のつくりかた』

ルイス・ダートネル著 東郷 えりか訳／河出書房新社

スマホや電気がない生活を想像したことがありますか？私はときどき、文明が減んでも、なお、生き残ってしまったときのことを考えたりします。

まず必要なのは、食料、つぎに住居、衣服などなど。娯楽もふくめて、今の生活を支える重要な「生きるため」の知識が必要です。文明が減んだら、生活を楽にするための機械、電気、化学物質、建物を作らねばなりません。そんな想像を現実レベルに落とし込んで解説してくれる本書は、人生に迷える工学部生にこそ読んでほしいと思います。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉504||D 91161170 〈梅田分館〉504||D 97210271 〈枚方分館〉504||D 98151505

応用化学科 村田 理尚 先生



『街道をゆく 40 新装版 台湾紀行』

司馬 遼太郎著／朝日新聞出版

『「国家とはなにか」を考えながら台湾をゆく。』本書はこのように始まります。惹かれた学生さんはぜひ読んでください。

応用化学科は台湾の学生さんとの国際交流が盛んです。私も台湾の国立陽明交通大学におられる先生と家族ぐるみのお付き合いがあります。一方、台湾の歴史を学んだことがある学生さんは少ないのではないかと思います。そのため、私の研究室の大学院生が台湾へ留学するときには、本書をプレゼントとして贈り、出発前に読んでもらっています。

2021年6月、日本政府は新型コロナウイルスワクチンを台湾に無償で供与しました。台湾の歴史と文化を学べば、台湾の人々とさらに深く仲良くなれるだろうと思います。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉915.6||S 91210740 〈梅田分館〉915.6||S 97210159 〈枚方分館〉080||A 98210577

応用化学科 平原 将也 先生



『昭和9年版 復刻版地図帳』 帝国書院

この地図帳は昭和9年、大日本帝国時代における国内・世界の地図帳です。当時の日本は、北は樺太・千島列島、南は台湾まで領土があり、日本の最高地点は新高山でした。

地図を開くと、当時の日本が何を重視していたか？どのような街が栄えていたか？自分の育った街は当時どのような形であったか？などなど多くの情報が目に飛び込んできます。

楽しみ方は人それぞれですが、二次元的な地図に対し、時間軸を加えて読み解くとあっという間に時間が過ぎてしまいます。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉 帝国之部：290.38||M 12100520 〈梅田分館〉 帝国之部：290.38||M||2 72100090
世界之部：290.38||M 12100521 世界之部：290.38||M||1 72100089

〈枚方分館〉 帝国之部：290.38||M 98210931
世界之部：290.38||M 98210930

生命工学科 藤田 英俊 先生



『スタンフォードの自分を変える教室』

ケリー・マクゴニガル著 神崎 朗子訳／大和書房

自分を変えるという、一度は誰もが考えることであるが、実行することが難しいこの命題について、誰でも実施できるように書かれています。

特に、精神論として考えられてきた「意志力」を科学的にわかりやすく解説していて、平易な文章で読みやすいです。

自分を変えようと思うことがある時に、手に取ってみるといいかもしれません。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉 141.8||M 91123087 〈梅田分館〉 141.8||M 97210303 〈枚方分館〉 141.8||M 98121433



『科学の方法』 中谷 宇吉郎著／岩波書店

科学的な考え方とはどういうものかについて、優れた随筆家でもある物理学者の中谷宇吉郎によって、平易でありながら明晰な文章で語られています。ほとんど数式はありませんので、どなたでも興味を持って手軽に読んでいただけるのではないかと思います。

一部分ですが本書の内容から印象に残った話題をご紹介します。地球の断面が円かどうか、彗星の軌道が楕円か放物線か（第三章「測定の精度」）、科学が発達してもテレビ塔から落とした一枚の紙の行方が予測できない話（第五章）、茶碗の曲線の話（付録）などの面白い例をあげながら、科学が取り扱える領域とそうでない領域、本質と誤差、あるいは自然と人間の微妙な境界について語られています。私たちが普段あまり意識していない、そういった自然との微妙な境界から何か新しいものが生まれてくる可能性にもわくわくさせられます。それ以外にも、科学と数学との関係や、科学と生命現象の関係についても分かりやすく説明されています。ちなみに本書で一か所だけ数式が並んでいるページがあるのですが（第十章）、実験と理論の連携を見事に示しています。

私自身の本書との出会いといえば、（実は科学とは直接関係ないのですが）学生時代に夏目漱石の小説から読み始めて、寺田寅彦の随筆を知り、そして著者の随筆「雪」を経て本書に辿り着いたと記憶しています。本書を手にとられた方でそれらを未読の方は、周辺の文学的な系譜を追ってみるのも楽しいかもしれません。あるいは、本書が出版された時代から現代へと続く科学論の変遷について調べてみても面白いかもしれません。

さて、この文章を書いている時点（令和3年5月現在）では、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大は収まる気配もないのですが、世の中では社会経済活動と科学的な感染対策とのバランスについて議論が続けられています。あるいは、私たちが日々受け取る膨大な情報の中には、一見もっともらしくても詐欺まがいの疑似科学に基づいたものもあり、そういったものを見抜く力が必要とされています。現代社会で生きている以上は誰であれ、科学あるいは科学的なものの見方と全く無縁でいることはできないでしょう。本書はそのようなことを考える際にも、ひとつのヒントを与えてくれるのではないのでしょうか。

名著といわれる本は何度読み返してもその度に新しい発見があるものです。今回この文章を書くために読み返してみましたがその通りで、いろいろな想像をかきたてられた一冊でした。

※図書館報『ぱびろにくす』115号にご寄稿いただきました。

一般教育科 野澤 真人 先生



『数学の言葉で世界を見たら 父から娘に贈る数学』 大栗 博司著／幻冬舎

言語を学ぶことは、文化や習慣の異なる立場に立つことで、これまでに見えなかった世界がみえることに繋がるでしょう。同様に、世の中には数学という言語を使わなければわからない広大な世界が広がっています。

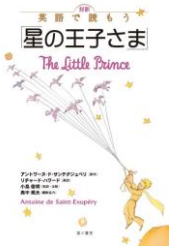
本書では中学・高校で習った数学のトピックを中心に、その数学がどのように生まれどのように現実世界に应用されているかが生き活きと描かれています。

自分の頭で考え判断できるリベラルアーツの力を養うのにオススメの一冊。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉410.4||O 91150392 〈梅田分館〉410.4||O 97210269 〈枚方分館〉410.4||O 98150528

総合人間学系教室 大塚 生子 先生



『対訳 英語で読もう「星の王子さま」』 アントワヌ・ド・サン＝テグジュペリ著 リチャード・ハワード英訳 小島 俊明和訳、注解 奥中 規夫編集協力／第三書房

大人になり、周りにある「当たり前」に何の疑問も抱かなくなって、ただなんとなく虚しい、そこはかたく疲れた、と感じた時、手にとって何度も読み返してもらいたい本です。

「大切なものは目に見えないんだよ」という名言が有名ですが、最近の私には「大人たちは、数字を見れば安心するからです。」という一文が刺さりました。

新しい友達が出来ても、大人たちは「どんな声をしているか」「どんな遊びが好きか」「蝶々は集めているか」ではなく、「何歳か」「兄弟は何人か」のような質問をする、と王子様はいます。そのことは友達の本質ではないと王子様は考えるのです。

原著はフランス語ですが、ぜひ英語と日本語で読んでみてください。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉837.7||S 91210738 〈梅田分館〉837.7||S 97210154 〈枚方分館〉837.7||S 98210552

総合人間学系教室 瀧川 宏樹 先生



『海底二万里（上・下）』

ジュール・ヴェルヌ著 村松 潔訳／新潮社

フランスの作家ジュール・ヴェルヌが1869～70年にかけて発表した本書は、映画化やディズニーシーでのアトラクション化など、根強い人気を誇るヴェルヌの代表作です。

世間を揺るがしていた海の怪物の中に監禁されることになってしまったアロナクス教授の一行。そこから、謎の多いネモ船長と共に世界中の海を巡る冒険が始まります。

潜水艦や海洋生物の描写など科学的観点からも味わうことのできる作品です。

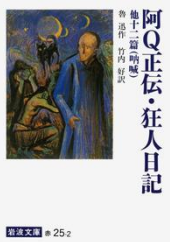
今から150年ほど前の、科学と想像力の融合の世界をぜひ楽しんでください。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉上：953.6||V||上 91210992 〈梅田分館〉上：080||S||上 97210209
下：953.6||V||下 91210993 下：080||S||下 97210210

〈枚方分館〉上：080||S 98210750
下：080||S 98210751

総合人間学系教室 西山 由理花 先生



『阿Q正伝・狂人日記 他十二篇』

魯迅作 竹内 好訳／岩波書店

主人公が20年ぶりに帰ると、故郷とかつての友人の姿は、思い出の中の楽しく生き生きとしたそれとは大きく変わっていました。

作者の魯迅は、日本留学を経て辛亥革命後の中国において文学で国を変えようと考えた「中国近代文学の父」です。

物語の終わりで、故郷を離れる主人公は次のように考えます。「希望」とは「地上の道のようなものである。もともと地上には道はない。歩く人が多くなれば、それが道になるのだ。」

中学の国語教科書にも掲載されていますが、年齢を重ね、改めて読んでみてほしい一冊です。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉923.7||R 00132063 〈梅田分館〉923.7||R 97210267 〈枚方分館〉080||I 98210832

空間デザイン学科 郡 裕美 先生

奈良少年刑務所 絵本と詩の教室

あふれでたのは
やさしさだったの
は

寮美千子

『あふれでたのは やさしさだった』 寮美千子著／西日本出版社

傷ついて血が流れるほど心が辛い時、本当は悲しいのに痛みを気づかないまま我慢している時、言葉を発してみたら何かが変わるかもしれない。誰もが、思っていること、感じていることを言葉にできれば、きっと新しい何かが始まる、そんなことを感じられる本です。
刑務所にいる人は加害者であるけど、もともとは被害者だった人かもしれない。
詩を読んだことがない人でも、その力を感じることができる、感動の一冊。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉327.85||R 91211072 〈梅田分館〉327.85||R 97210236 〈枚方分館〉327.85||R 98210814

空間デザイン学科 山本 麻子 先生



『夜は短し歩けよ乙女』 森見 登美彦著／KADOKAWA

大学生である「先輩」と「黒髪の乙女」の物語。恋物語ではありませんが、京都の中でも、飲み屋街である先斗町、下鴨神社での古本市、学祭そして一人暮らしの下宿といった大学生にゆかりのある場所を舞台に、なんとという事もない、けれどもそれぞれの人にとっては一度しかないような出来事が、独特なタッチで、でも説得力をもって描かれています。

これを読むと、色々な人の大学生活についての話を聞いてみたくなります。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉913.6||M 10701129 〈梅田分館〉913.6||M 97210477 〈枚方分館〉913.6||M 80700509

データサイエンス学科 瀨田 悦生 先生



『日本人のための現代史講義』谷口 智彦著／草思社

1945年8月に大きな戦争が終わり、日本が復興を成し遂げてきた経緯を私たちはあまり勉強していないでしょう。

この本の二章『「戦後日本」という奇跡』を読むと、先人の心意気や日本の歴史や文化を再認識出来ます。そうすると、きっと元気が出てくるでしょう。

理系だからこそ、技術を悪用されないためにも知っておくべき現代歴史だと思います。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉209.75||T 91210739 〈梅田分館〉209.75||T 97210158 〈枚方分館〉080||S 98211275

『菜根譚 中国人の処世訓』湯浅 邦弘著／中央公論新社



人生を
鍛える箴言

中国の歴史と文化の叢書
菜根譚
湯浅邦弘著
中央公論新社
ISBN 978-4-12-001085-9

「さいこんたん」と読みます。原書は中国の明代末に書かれた処世訓で、江戸時代に和訳され多くの日本人に読まれました。社会での身の処し方や人生の楽しみ方が書かれています。

そのなかから学生の皆さんにひとつ紹介します。

「磨礪（まれい）はまさに百煉（ひゃくれん）の金のごとくすべし、急就（きょうしゅう）は遼養（すいよう）にあらざり」

一言でいうと「自分磨きには時間がかかるものなので焦ってはいけない」という意味です。

菜根譚に関する書籍はたくさんありますが、本書は時代的背景やエピソードが丁寧に解説されており、読みやすい一冊です。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉159|Y 91211124 〈梅田分館〉159|Y 97210268 〈枚方分館〉081|C|2042 98210859

情報システム学科 雨宮 徹 先生

『藪の中・将軍』芥川 龍之介著／KADOKAWA



芥川龍之介を読んでいる自分はカッコいいと思い、初めて一人暮らしをする大学の下宿に一冊だけ持って行った本が、彼の短編集でした。恥ずかしい。さて、私のこうした虚飾の心とは別に、やはり芥川は鋭く、面白いです。

今回取り上げるのは「藪の中」という短編です。もしあなたが、なぜ自分の思いと他人の思いがこれほどまでに食い違うのかということで苦労しているなら、そういった状況を考え直すためのヒントになるかもしれません。私が「藪の中」を読むきっかけとなったのは、黒澤明の映画『羅生門』を観たことでした。というのも、黒澤は芥川の短編「羅生門」から自分の映画のタイトルを取っていますが、そのストーリーは芥川の別の短編「藪の中」をベースにしているからなのです。ややこしいですね。

この小説では、平安時代のある殺人事件の真相をめぐる、登場人物の証言の食い違いが描き出されます。果たして誰が嘘をつき、誰が真相を語っているのか。自分が見た景色こそ真実だとするならば、真相などどこにもないということになるのか。黒澤は真相がある、という前提で『羅生門』を製作しています。しかし、お互いに噛み合わない、一人一人の心理的事実があるだけだ、という解釈も可能です。そして、こちらの解釈の方がより現代的であるようにも思えます。芥川の「藪の中」に直接的に関係はしていませんが、湊かなえ「告白」（双葉文庫、¥681）は、後者の路線を救いようのないくらい徹底的に突き詰めた作品だと言えるでしょう。

自分と他人が同じ景色を見ることができ、同じ価値観を共有できるという前提で生きていくと、納得できないことが多くなり、その分苦しい思いをすることも増えると思います。しかし、もともとお互いに違う景色が見えているものだ、という前提で生きることができれば、却って自分や他人を許すことができるようになり、少しは生き易くなるかもしれません。

芥川の「藪の中」は無料で読めるWebページの「青空文庫」にも入っています。黒澤の『羅生門』、湊かなえの「告白」と一緒に味わってみるのはいかがでしょうか。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉080|K 00125117 〈梅田分館〉913.6|A 97210204 〈枚方分館〉080|K 98210729



『寺田寅彦随筆集』小宮 豊隆編／岩波書店

著者は、明治を代表する物理学者であり随筆家でもあります。今話題の二刀流です。随筆集の中の「とんびと油揚」では、上空のとんびがどうやって地上の小さな獲物を見つけるのかといった何気ない現象について、科学者の視点で深く観察・考察しつつ、巧みな文章で優しく書いています。また、“天災は忘れた頃にやってくる”も著者の言葉とされています。当時頻発した災害を教訓として、日本独自の防災対策の必要性を指摘した作品も収録されていますので、是非読んでみてください。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉

1巻：914.6||T||1 00131534
2巻：914.6||T||2 00131533
3巻：914.6||T||3 00131532
4巻：914.6||T||4 00131531
5巻：914.6||T||5 00131530

〈梅田分館〉

1巻：914.6||T||1 97210277
2巻：914.6||T||2 97210278
3巻：914.6||T||3 97210279
4巻：914.6||T||4 97210280
5巻：914.6||T||5 97210281

〈枚方分館〉

1巻：080||I 80701603
2巻：080||I 80701604
3巻：080||I 80701605
4巻：080||I 80701606
5巻：080||I 80701607



『今度生まれたら』内館 牧子著／講談社

タイトルから「生まれ変わるなら、どういう人生を歩みたい？」という非現実の空想かと思われるかもしれませんが。そうではありません。

標準的には幸せに暮らしている初老の女性が日々について焦燥を覚え始め、その中で自分の道を見つけていく物語です。主人公は老人ですが、どの世代の人にも生きるヒントを与えてくれる本だと思います。

特に、学生のみなさんには、これから何を大切に進んでいけばよいのか考えてもらいたいと思いました。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉913.6||U 91210724

〈梅田分館〉913.6||U 97210153

〈枚方分館〉913.6||U 98210531

情報メディア学科 大井 翔 先生

NO
PICTURE

『岩田さん 岩田聡はこんなことを話していた。』
ほぼ日刊イトイ新聞編／ほぼ日

任天堂で社長を務めていた故・岩田聡氏の発言をベースに書かれています。

岩田さんは、ゲームプログラマーとしても一流の人で、経営もずば抜けた天才。

情報分野に進んでいる学生の皆さんにはぜひとも読んでほしい一冊です。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉 589.77||I 91190762 〈梅田分館〉 589.77||I 97210282 〈枚方分館〉 589.77||H 98191613

情報メディア学科 中西 淳 先生



『英単語学習の科学』中田 達也著／研究社

英語をマスターしたい人にとって、英単語学習は永遠の課題です。本書は、伝統的な英単語学習法だけでなく、最近の研究で明らかになった効率的な学習法についても非常にわかりやすく紹介してくれています。

本書を読んで、たくさんのユニークな英単語学習法の中から自分にあった学習法を見つけ出してみてください！

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉 834||N 91191311 〈梅田分館〉 834||N 97210270 〈枚方分館〉 834||N 81900523



『ガンジス河でバタフライ』たかの てるこ著／幻冬舎

大学生だった筆者が一念発起して海外旅行へ！その体験談を綴ったエッセイ集です。

当時島田紳助が「（筆者のマネをして海外に行くのは）あかん、やめとき、絶対死ぬで」と本の帯に記載した通り、怖いもの知らずの旅行談で、コロナ禍で窮屈な生活を強いられている現状を忘れて、ちょっと息抜きできる一冊です。

また、新しいことにチャレンジしようとする人や、海外に興味がある人には刺さる一冊になるかも！？

是非読んでみてください。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉292.09||T 91211280 〈梅田分館〉292.09||T 97210272 〈枚方分館〉080||G 98180168

教育センター 岡村 多加志 先生



『フラット化する世界 [増補改訂版] (上) (下)』

トーマス・フリードマン著 伏見 威蕃訳／日本経済新聞出版

2010年に会った本です。アメリカで電化製品の問い合わせをコールセンターにすると、その電話の相手はインドの人であるということに興味を持ち読み出しました。当時、国際電話は千円以上も必要でした。

後に、インターネットが進み、現在ではLINEでTV電話ができるようになりました。インターネットにより、世界はフラット化され、ビジネスモデルも大きく変わるという趣旨は、それを利用したユニクロやZOZOTOWNで実証されています。

10年後の今日、フラット化された部分もありますが、南北問題、温暖化問題などはより深刻化しています。いずれにしろ、世界規模で物事を考えないと問題解決にならないと気づかされた一冊でした。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉上巻：361.5||F||上 10706097 下巻：361.5||F||下 10706098



『ポストコロナ期を生きるきみたちへ』内田 樹編／晶文社

新型コロナウイルス感染症に関して多くの書籍が出版されています。この本にはポストコロナ期＝コロナ禍が収束した世界で「生き延びるために」何を準備すればいいのか、そのことを考えるために多様な年代・立場の方の論考が記されています。（PCR 検査等の感染症対策は触れられていません。）

この本が出版された2020年を簡単に振り返ってみましょう。コロナ禍で初めての緊急事態宣言が出された4月7日の大阪府の感染判明者数は53人。その頃布製の小さなマスクが1世帯に2枚ずつ配布されました。キャンパスから多くの学生の姿が消えオンライン講義がメインとなりました。（「うそみたいな本当の話」としてうがい薬が話題になったこともありました。）現在の世界に目を移せば累積感染者数および累積死亡者数はそれぞれ2億人、400万人を超え、日本でも累積死亡者数は2万人近くになろうとしています。毎日の生活でマスクをするのが普通になり、友だちと騒いだりすることや旅行が自由にできなくなりました。まえがきで内田樹はこれらを「ウイルス一つによって、わずか数ヶ月の間に、ほんの昨日までこの世界の「常識」だと思われていたことのいくつかが無効を宣告されました。」と述べています。この本ではコロナウィルスによって変わってしまった世界にどう対応していくかについて様々な切り口から複数の意見が述べられています。どれか1つでも共感する点があり、深く考えるきっかけになればいいと思います。

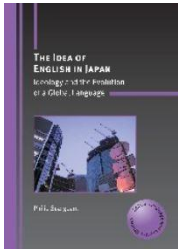
少しだけ内容を紹介します。ポピュラー音楽研究の増田聡は学生からの「椎名林檎になるための方法を教えてくれる学校はどこにあるのか」という質問に対し「大学はどうあるべきか」という観点から否定的な返答をした例を紹介しています。椎名林檎になる方法を教える学校がないのと同じくコロナ禍の解決策は「まだ」ありません。コロナ禍に限らず「問題を解決すること」は誰かが教えてくれるのではなく、自分の知性をもとに導き出さなければなりません。そのような営みこそが「知」の仕事であり大学でなすべきことと増田は主張します。

ベストセラーとなった『人新世の「資本論」』の斎藤幸平は環境問題がコロナ禍と同様現代社会が引き起こしたものであるとの認識のもと「ポストコロナの時代には、大人たちに助言を求めるのは止めたほうがいい。（中略）大人たちだって、これから作るべき新しい社会の答えを知らないのだ。（中略）答えがわからないからこそ、一から一緒に、みんなで考えようという姿勢が、ますます大事になる。」として未来をつくるZ世代への期待を表しています。

女性や理工系の論者が少ない、海外からの視点が少ないなどの批判はありますが、上記2人を含め20人の論者からのラジカルなメッセージのなかにきっと知的好奇心を揺さぶるものがあると思います。

※図書館報『ぱぴろにくす』116号にご寄稿いただきました。

ランゲージラーニングセンター (LLC) マーティン メリック 先生



『The Idea of English in Japan: Ideology and the Evolution of a Global Language』

Philip Seargeant 著 / Multilingual Matters

I recommend this book because it explains the role of English in Japan and why it is an important global language to learn.

I hope that students can use English for international communication through learning English in the LLC.

日本での英語の役割と、なぜそれが重要な世界共通言語であるのかを説明しているので、この本をお勧めします。

LLCで英語を学ぶことで、学生が国際コミュニケーションに英語を使えるようになることを願っています。

請求記号・資料ID

〈大宮本館〉830.711S 12100484 〈梅田分館〉830.711S 72100095 〈枚方分館〉830.711S 82100418

ご推薦いただきました教員の皆様、ありがとうございました。
紹介された図書は、大宮・梅田・枚方キャンパスともに図書館の
「君に薦める一冊の本」コーナーに展示いたします。





常期学園 みらいを つくる つたえる まもる。

大阪工業大学

OSAKA INSTITUTE OF TECHNOLOGY